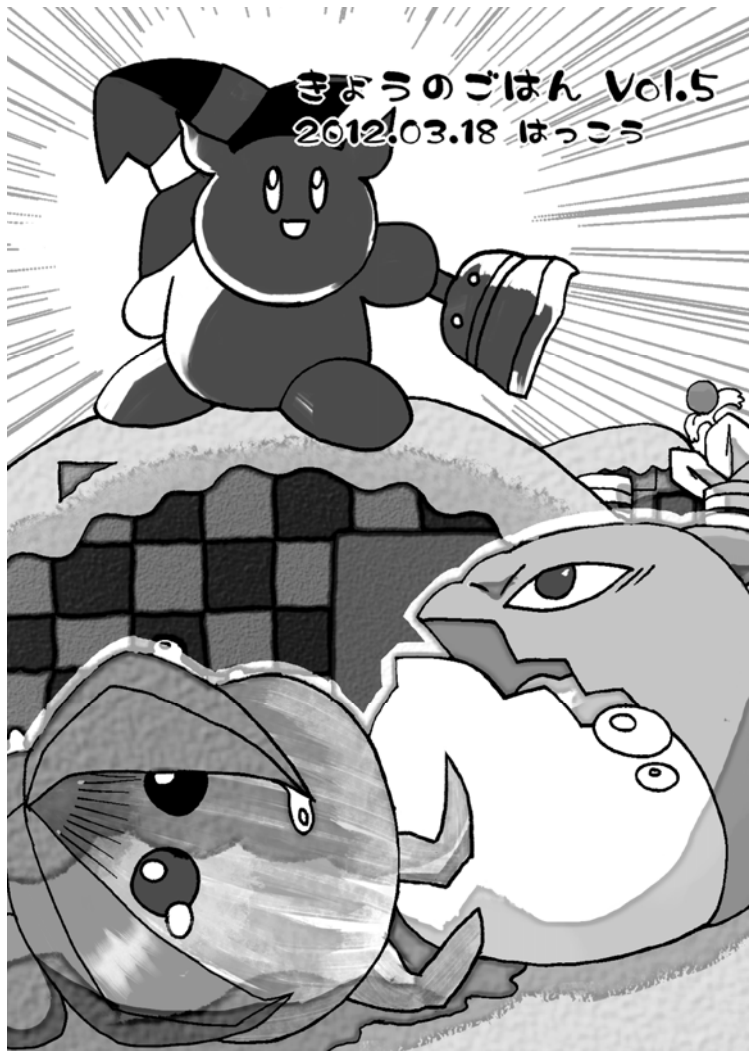


きょうのごはん Vol.5

2012.03.18 はっころ



星のカービィ2はさりげなく難易度高め！ 皆様初めまして、あるいはお久しぶりです。ハガカことハガネカービィと申します。本日はサークル『カービィ小説ML出版部』にお立ち寄り頂きありがとうございます。とうございませう！（因みにカービィ2は3DSで配信中です。）

カービィ小説ML出版部は『星のカービィの二次創作小説を発表しあうメーリングリスト』であるカービィ小説ML（以下KNML）の派生サークルです。KNMLの主な活動の場はWebですが、折角のカービィ小説をもっと沢山の人に知って頂きたい、願わくは仲間を増やしたい、そして更に色々な作品に出会っていききたい、という思いから、こうしてオフライン活動も行っております。以後お見知り置き頂けますと幸いです。

さて早速ですが、カービィ小説を紹介するならばやはり読んで頂くのが一番、ということ、次のページからは短編を丸ごと一作掲載させて頂きました。掲載作は、KNMLにて『被り物』のお題で短編集を行い、人気投票で一位になった作品です。というか、恐縮にも自分の作品が一番のスコアを頂いてしまったので、嬉しいやら気恥ずかしいやら不思議な感覚ではありますが……少しでもお楽しみ頂けましたら幸いです。それでは、どうぞ。

発行物情報

新刊 『トマトのスター』

2012.3.18 発行/A5サイズ/24P/300円

有志による星のカービィ漫画&小説アンソロジー。いわゆる『同人誌』です。

『ながれぼしのおもいで』

2011.12.29 発行/文庫/208P/800円

星のカービィ小説文庫第2弾。小説8篇とイラスト30点を収録。通称『小説本』。

参上！スカーフィ仮面

ハガネカービー

（補足：『バルビー』は星のカービー
Wiiから登場した、球根のような姿
の敵です。リーフをコピーできます。）



地平線の果てまで続く砂漠に、点在する遺跡群

そして吹き出す砂の噴水。壮大な景観で知られる
ここレーズンルインズでは、今日もワドルディ達
が元気良くヌラフから振り落とされています。

そんな広大な砂漠の中、この土地では唯一水が
湧き出ているオアシスを、一人のブルームハッター
ーが歩いていました。

「まったく、カービーさんも冒険するのは結構で
すけど、もう少し大人しく動けないモノなので
かねえ」

ブルームハッターはぶつぶつと呟きながら、オ

アシスと砂漠の境界までやってきます。そして愛
用の箒を構えると、足下の砂を掃き始めました。
「せつかく綺麗に整えた砂がぐちゃぐちゃじゃな
いですか」

オアシスの若干固い地面の上から、一掃き、ま
た一掃きと、丁寧に砂を砂漠の方へ掻き出して
いきます。砂漠の砂に対して一本の箒で抗うその光
景は、端から見るとまさに焼け石に……いえ、き
つとそこには彼なりの想いがあるのでしょうから
野暮なツツコミは無しといたしましょう。とりあ
えずカービーに罪はなさそうです。

少しすると、ブルームハッターは箒を動かす手
を止め、顔を上げました。帽子の鏝を押し上げて
額の汗を払い、そのまま大きく伸びをして辺りを
見渡します。

「ふう、今日は日差しが強いですね……おや？」

「や、やめてくださいい〜」

「遠慮してんじやねーよ、ほらほら」

オアシスからほど近い砂漠の一角で、ウォーターガルボがバルビイに水を噴きかけています。

「いやあ〜」

「何が、いやー、だよ。水が欲しいからオアシスに案内しろってんだろ、ほらほら、水ならいくらでもやるよ」

ウォーターガルボはそう言つと、やや斜め上の方向に水を噴き出します。放物線を描いた水がバルビイの頭の花に直撃し、バランスを崩したバルビイが転びました。そこに更に水が襲いかかります。

「や、やめえ」

これはいけません。確かに球根の成長には沢山の水が必要ですが、あまりにも水が多すぎれば腐ってしまつこともあるのです。小学校の理科で習わなかつたのでしょうか。

「引つ越してきたばっかのくせに俺様に声をかけ

るなんて生意気なんだよ。大体なんだよ。『かくれリーフ』って。無敵はするいだる無敵はよお。反省しろってんだよお」

しかもウォーターガルボの理論はめちやくちやです。ウォーターだつて充分強いのですから、これでは八つ当たりにもなりません。

「ごぼごぼ」

「はっはっは、まあ気が済んだらオアシスに運んでやるからよ。ほーら、もう一回」

「まてーい!!」

そこに突然、二人のものとは別の声が響き渡りました。

「ごぶつごぼつごぼつ！ な、なんだよ?!」

驚いて水を吐き損なつたウォーターガルボは盛大にむせると、声のした方に振り返ります。声は凄んでいますが、むせたばかりで口から水が滴っているの、顔がいまいちキマっていません。

「そのウォーターガルボ！ 弱いものいじめは

やめなさい！」

声のした方には一つの砂丘、砂丘の上には一人の人影がありました。赤い足、黄色い体、そして、頭にはオレンジ色の人なつっこそうな笑顔。そんな風体の人影が、左手に持った箒をウォーターガルポの方に突きつけています。

「誰だお前……ってその箒どう見てもブルーム」
「我が名はスカーフェイス！ ポップスターの平和を乱す奴は私が許さん！ トゥッ！」

スカーフェイスと名乗ったその人影は、ウォーターガルポの言葉に耳を傾ける気配も見せず、二人の方へ大きくジャンプします。そして、不安定な砂の足場も何のその、華麗な着地を決めると、改めてウォーターガルポに対してファイティングポーズを取りました。笑顔で。
「い、いやいや、とっ、じゃなくてだな……」
どこから突っ込んで良いか分からないウォーターガルポはしどろもどろです。

「そうか、弱いものいじめをやめる気はないと言っただな」

「いやそんなことは言っただけよ、やめるとも言っただけ」

「ぶはっ、はあ、はあ……??」

一方、水攻めから解放されたバルビィはどうにか息を整えると、転がったまま声の主を見上げました。どうやらこの笑顔の好青年が自分を助けてくれたようです。引越してきたばかりで右も左も分からない自分に襲いかかるチンピラの魔の手そしてそこに現れた好青年。これはもしかして！
「やはりやめないのでないか！ では……くわっ!!」

「あ、ありが?!?!」

バルビィがとにかくお礼をと思ったその刹那、これ以上ない笑顔だったスカーフェイスの顔が、一つ目で鋭い牙を持った鬼のような形相に変わりました。

「きゃああああ……怖いいいい……!!」

バルビィは驚きのあまり、そのまま転がって逃げてしまいました。

「えっ、あつ、ちよつとキミ!」

「……さ、さすがスカーフイ仮面を名乗るだけのことはあるな。どうなってんだよその仮面……」

盛大にたじろいだウォーターガルボが、平静を装って問います。

「……う、うむ、被害者の救出は完了した! 今日ではこれで見逃してやるっ!」

一方のスカーフイ仮面は転がるバルビィを呆然と目で追っていましたが、それが見えなくなると、ウォーターガルボの質問を無視してこう締めくくりました。そして瞬時に笑顔に戻るとサツと踵を返し、立ち去ろうとします。

「コラ待て、無視すんじゃないか!! というか救出じゃなくて驚かしたんじゃないか!!」

ウォーターガルボが声を荒らげます。ようやく

状況が整理できて怒り心頭と言ったところでしようか、その顔はまるで炎を吐く方のガルボのように真っ赤です。

「……何だね、私と戦いたいと?」

スカーフイ仮面はその言葉を聞くと、もう一度サツと向きを変え、ウォーターガルボに向き直りました。

「戦いたいとかじゃなくて、オトシマエつけさせろってんだ!」

ウォーターガルボは早速と言わんばかりに口の中に水を溜め始めます。

「……仕方ないな、気は進まないが、悪党を懲らしめるのも仕事の内……」

スカーフイ仮面はその様子を見ると、大きく息を吐き、そして再び鬼の形相に戻りました。

数分の後、心配になって戻ってきたバルビィが岩影から恐る恐る覗き込むと、そこには蒸気に包

まれてすっかり蒸し上がったウォーターガルボと仮面以外の部分がこんがりを通り越して真っ黒に焦げたスカーフイ仮面が、仲良く倒れていました。二人の周りの砂は大きくえぐり取られ、ちょっとしたクレーターのようになっています。

バルビイがそのまま、恩人を助けたい気持ちと何もなかったことにして逃げたい気持ちとで真剣に悩んでいると、不意に、倒れたままのスカーフイ仮面からその象徴たる『仮面』が剥がれ落ちました。……いえ、『仮面』が浮かび上がりました。スカーフイの鬼の形相をしたその『仮面』は、おもむろに大きく息を吸い込むと、ぼこん、という小さな音と共に球体に近い姿に変化します。そして。

「やっぱりこいつもダメか……」
「?!?!」

なんと『仮面』が喋りました。バルビイは絶句します。

「このスカーフイ仮面様にふさわしい者は、この星にはいないのかね。これじゃあヒーローにならないじゃないか……」

そしてスカーフイ仮面の『仮面』もとい、スカーフイは、ふつと笑顔に戻ると、そのままふわふわとその場を去って行きました。……完膚無きまでに懲らしめられたウォーターガルボと、それ以上に至近距離で爆発を受けた、何の関係もない善良なブルームハッターをその場に残して。そしてバルビイは、早くも次の引越先を考えたのでした。

続く……？

再びこんにちは、ハガネカービィ（略してハガカ）です。拙作『参上！スカーファイ仮面』をお読み頂きありがとうございます！

本作のお題は『被り物』。しかし一言で『被り物』と言っても該当物は多種多様。他の方の作品もコピー能力の帽子やら節分のお面やらとバラエティに富んでいました。私はそんな中でヒーローのマスクをテーマに『何か間違ってる』感じのギャグを目指してみたのですが、いかがでしたでしょうか。少しでもお楽しみ頂けていれば良いのですが……。

ともあれ、感想や投票を下さったKNMLの皆様、そしてお読み頂いた皆様には、改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございます。

最後にお読み頂いた皆様へ。もしお楽しみ頂けたようでしたら、ぜひ下記アドレスからKNMLを覗いてみて下さい。沢山のカービィ小説がお待ちしております。では、Webや次の冊子で再会できることを願いつつ、失礼致します！ ハガネカービィ



◆ 奥付 ◆

きょうのごはん Vol.5

2012.3.18 HARU COMIC CITY 17 発行

カービィ小説ML出版部

(<http://www.knml.net/>)

表紙：極餅

本文・発行：ハガネカービィ

